

2019年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2019年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2019年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式Bに記述のうえ提出してください。

1. 重点プロジェクトの推進

以下の3課題を重点プロジェクトとし、第3期R-GIROの2つの研究プロジェクト（修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築、ならびに、学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成）と連携を行之つつ、研究展開を行った。下記3つのプロジェクトに25のサブ・プロジェクトを組み込んだ研究プロジェクトを実施し、多彩な活動が展開された。各プロジェクトの特筆すべき成果・取り組みは以下の通りである。

(1)「法と対人援助」：①民事法領域に焦点をあてて研究蓄積及び共同研究実績を基盤に、法と心理学の融合的視点からのケアと修復について具体的な提言を行った。②事件の目的者に対する適切な犯人識別手続きについて、心理学実験の実施し、捜査官役の犯人についての知識、及び犯人を誘導する圧力は、目撃者役の犯人識別結果に影響を及ぼさないことが分かった。③発達心理学、認知心理学分野における司法面接に関する基礎的・実証的な研究をレビューし、特に少年の特性を踏まえた面接法につきまとめた。④自由刑と保安処分との関係について、ドイツでの議論を調査し、刑法読書会にて報告を行った。⑤本主題の今後の課題を展望し、車いすの移動アクセシビリティの歴史的背景を主眼におくことをふまえ、歴史的アーカイブを収集した。

(2)「対人援助の学融的研究」：①視線移動計測による念頭操作過程の可視化を目的として実験を行った。②本学創思館の模擬喫茶店舗を利用して、特別支援学校の生徒を対象とした職場実習の実践研究を実施した。③胎児期から幼児期までの子どもとその養育者に対する経時的研究「いばらきコホート」を実施した。④ナラティブからとらえるアイデンティティとキャリアの凶化プロジェクトの方法論的基盤をなす、質的研究法 TEA/TEM に関する研究を推進した。⑤質的研究法の開発として、国際比較研究による日本社会の特殊性・普遍性に関する研究の主旨者であるイタリア・サレント大学のサルバトーレ教授との共同研究の日本版のアンケートデータを分析した。

(3)「対人援助の人間科学（基礎・応用）」：①エラーを繰り返す現象に注目して、その加齢効果を検討した。②アクセプタンス&コミットメント・セラピーを用いた対人援助の研究を行った。③インクルーシブ社会・医療サービス・プロジェクト全体に関わる検討と個別的な研究の進展とを進展させた。④自閉症スペクトラム障害児を対象に、遊びを中心とする療育プログラム開発の活動を実施し、併行して親の会活動も実施した。⑤アンケート調査を行い、音訳ボランティアに高齢者が多い現状は、新規に高齢者が音訳ボランティアに加入した結果であることを明らかにした。⑥認知心理学の観点から人の記憶に関する研究を行い、ベイズ統計の応用研究とコンピューターによる実験プログラム作成を行った。⑦ASDの連続体の概念を理解する手がかりとするため、障害をもたない対象者に協力を依頼して、継続してデータ収集を行った。

また、日本財団と連携し、2020年2月に第8回年次総会を、朱雀キャンパスにて開催した。フォスタリングに関するシンポジウムを開催するとともに、ポスターセッション（報告数：10）を実施した。

2. 学術誌の刊行と多様な手段による情報発信

(1)『立命館人間科学研究』を2号刊行し、同時に全文をWeb公開した。掲載論文の多くは、外部査読者を含む2名以上の査読を経たもので、計9本の論文を掲載した。

(2)研究成果の社会的発信を促進するため、日英両言語により「人間科学のフロント」（研究紹介ページ）を公開するとともに、ソーシャルメディア等Web上で積極的な情報発信を行った。

(3)2019年4月の立命館土曜講座を担当し、「社会に生きる人間科学」をテーマとして4回の公開講座を行った。

3. 若手研究者の育成

各種プロジェクト・活動の推進にあたり、大学院生（特に、後期課程）、ポストドクトラル・フェローなどを含め、人間科学の次世代の担い手の育成に努めた。研究所重点研究プログラムを活用し、萌芽的プロジェクト研究助成を継続して実施するとともに、次年度以降の研究展開に向けて検討を行った。また、プロジェクト室をはじめとする研究資源について、若手研究者を中心に配分し、研究基盤の形成を大いに支援した。

4. その他研究の展開

・重点プロジェクトに加えて、10の一般プロジェクト研究、6の萌芽プロジェクト研究プロジェクトが展開された。また、優生保護法、えん罪救済、新型コロナウイルス感染症、など時事問題に絡んだ研究について各種メディアより取材依頼・引用・参照されるなど、社会から注目・評価されたことも特筆したい。

・日本財団の資金を受け、社会人向け講座として「フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座」を実施した（2020-22年度の予定）。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	松田 亮三	産業社会学部	教授
運営委員	中村 正	産業社会学部	教授
	岡田 まり	産業社会学部	教授
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
	谷 晋二	総合心理学部	教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	矢藤 優子	総合心理学部	教授
	安田 裕子	総合心理学部	准教授
	若林 宏輔	総合心理学部	准教授
	増田 梨花	人間科学研究科	教授
	村本 邦子	人間科学研究科	教授
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授
	森久 智江	法学部	教授
	稲葉 光行	政策科学部	教授
	斎藤 真緒	産業社会学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	仲 真紀子	総合心理学部	教授
	林 勇吾	総合心理学部	准教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	金 成恩	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教
	上宮 愛	総合心理学部	助教
	武田 知明	OIC 総合研究機構	客員研究教員
	平岡 義博	衣笠総合研究機構	特別招聘教授
	二宮 周平	法学部	教授
	岡本 尚子	産業社会学部	准教授
	中鹿 直樹	総合心理学部	准教授
	澤野 美智子	総合心理学部	准教授
	北出 慶子	文学部	教授
	山浦 一保	スポーツ健康科学部	教授
	山口 洋典	共通教育推進機構	准教授
	斎藤 進也	映像学部	准教授
	早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授
	開沼 博	衣笠総合研究機構	准教授
	土田 菜穂	総合心理学部	助手
廣瀬 翔平	総合心理学部	助手	

		堀江 未来	国際教育推進機構	教授
		松原 洋子	先端総合学術研究科	教授
		山本 耕平	産業社会学部	教授
		竹内 謙彰	産業社会学部	教授
		津止 正敏	産業社会学部	教授
		星野 祐司	総合心理学部	教授
		岡本 直子	総合心理学部	教授
		三田村 仰	総合心理学部	准教授
		荒木 穂積	人間科学研究科	教授
		中村 隆一	人間科学研究科	教授
		對梨 成一	文学部	助教
		都賀 美有紀	総合心理学部	特任助教
		原 幸一	文学部	教授
		野田 正人	産業社会学部	教授
		小澤 亘	産業社会学部	教授
		櫻谷 眞理子	産業社会学部	教授
		石倉 康次	産業社会学部	教授
		荒木 穂積	人間科学研究科	教授
		団 士郎	人間科学研究科	教授
		吉 沅洪	人間科学研究科	教授
		DUMOUCHEL Paul	先端総合学術研究科	教授
		八木 保樹	総合心理学部	教授
		服部 雅史	総合心理学部	教授
		北岡 明佳	総合心理学部	教授
		廣井 亮一	総合心理学部	教授
		山本 博樹	総合心理学部	教授
		宇都宮 博	総合心理学部	教授
		東山 篤規	総合心理学部	教授
		湯浅 俊彦	文学部	教授
		常世田 良	文学部	教授
		春日井 敏之	文学部	教授
		藤本 学	教育開発推進機構	准教授
		荒木 寿友	教職研究科	准教授
		丸山 里美	産業社会学部	准教授
		上宮 愛	総合心理学部	特任助教
		京屋 郁子	総合心理学部	特任助教
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	山崎 優子	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		山田 早紀	立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究員
		大谷 彬矩	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		孫 怡	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		肥後 克己	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		神崎 真実	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員

	妹尾 麻美	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
② リサーチアシスタント	中田有貴	立命館グローバル・イノベーション研究機構	リサーチアシスタント
③ 大学院生	木村 祐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程4回生
	星田 雅弘	人間科学研究科	博士課程後期課程
	連 傑濤	文学研究科	博士課程前期課程
	黄 信者	国際関係学研究科	博士課程後期課程
	瀬口 篤史	人間科学研究科	博士課程後期課程
	加藤 宏公	人間科学研究科	博士課程後期課程
	黒木 幸敏	人間科学研究科	博士課程後期課程
	井出 悠香子	人間科学研究科	博士課程前期課程
	土元 哲平	文学研究科	博士課程後期課程
	饗庭 桃子	人間科学研究科	博士課程後期課程
	武田 悠衣	人間科学研究科	博士課程前期課程
	高山 仁志	人間科学研究科	博士課程後期課程
	小嶋 理恵子	社会学研究科	博士課程後期課程
	金森 京子	社会学研究科	博士課程後期課程
	江頭 典江	社会学研究科	博士課程後期課程
	平松 祐佳	人間科学研究科	博士課程後期課程
	ZHANG Pin	人間科学研究科	博士課程後期課程
	手島 洋	社会学研究科	博士課程後期課程
	大原 ゆい	社会学研究科	博士課程後期課程
	西田 朗子	社会学研究科	博士課程後期課程
	和田 真依	社会学研究科	博士課程前期課程
	PARK Yeong Gyun	社会学研究科	博士課程前期課程
	森野 祐一	社会学研究科	博士課程前期課程
	岡田 和秀	社会学研究科	博士課程前期課程
	徳竹 綾香	社会学研究科	博士課程前期課程
	鈴木ひかり	人間科学研究科	博士課程前期課程
	上仲晴菜	人間科学研究科	博士課程前期課程
	坂口龍也	人間科学研究科	博士課程前期課程
	徐曼	人間科学研究科	博士課程前期課程
	藤田佳恵	人間科学研究科	博士課程前期課程
	井出悠香子	人間科学研究科	博士課程前期課程
	朝倉みずき	人間科学研究科	博士課程前期課程
佐藤友紀	人間科学研究科	博士課程前期課程	
饗庭桃子	人間科学研究科	博士課程前期課程	
大橋佳奈	人間科学研究科	博士課程前期課程	
植木雪音	人間科学研究科	博士課程前期課程	
内田信之介	人間科学研究科	博士課程前期課程	
浮田千紗子	人間科学研究科	博士課程前期課程	
寺岡芽美	人間科学研究科	博士課程前期課程	
藤田恭未	人間科学研究科	博士課程前期課程	

	高村希帆	人間科学研究科	博士課程前期課程
	近藤礼菜	人間科学研究科	博士課程前期課程
	操谷美沙	人間科学研究科	博士課程前期課程
	谷千聖	人間科学研究科	博士課程前期課程
	杉山健	人間科学研究科	博士課程前期課程
	稲次望	人間科学研究科	博士課程前期課程
	高磯伯羽	人間科学研究科	博士課程前期課程
	遠田勇介	人間科学研究科	博士課程前期課程
	山内直哉	人間科学研究科	博士課程前期課程
	高橋穂波	人間科学研究科	博士課程前期課程
	木村駿	人間科学研究科	博士課程前期課程
	富井奈菜実	社会学研究科	博士課程後期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	三品拓人	学術振興会特別研究員
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	斧原 藍	立命館グローバル・イノベーション研究機構	補助研究員
	大野 静代	産業社会学部	非常勤講師
	光廣可奈子	経営学部	授業担当講師
客員協力研究員	川端 美季	衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	浅田 和茂	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員(特別 研究フェロー)
	浜田 寿美男	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員(上 席研究員)
	笹倉 香奈	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	知花 鷹一朗	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	川崎 拓也	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	和食 慶江	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	水月 昭道	OIC 総合研究機構	客員協力研究員
	山崎 まどか	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	黒田 恭史	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	乾 明紀	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	恒松 伸	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	高山 仁志	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	上村 晃弘	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	川本 静香	立命館グローバル・イノベーション研究機構	客員協力研究員
	宮 裕昭	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	吉田 甫	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	石川 眞理子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	高橋 伸子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
安井 美鈴	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員	

	戸名 久美子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	松島 京	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	由井 秀樹	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	村上 慎司	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	棟居 徳子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	高山 一夫	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	荒木 美知子	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
	森川 綾女	OIC 総合研究機構	客員協力研究員
	植村 要	衣笠総合研究機構 人間科学研究所	客員協力研究員
その他の学外者	相澤 育郎	立正大学法学部	助教
	安 孝淑		
	山本 渉太	警察庁警察大学校	
	皿谷 陽子	福山大学人間文化学部心理学科	
	春日 秀朗	福島県立医科大学 医学部	助手
	滑田 明暢	静岡大学大学教育センター	講師
	坂田 陽子	愛知淑徳大学 心理学部	教授
	春日 彩花	大阪大学大学院人間科学研究科	博士後期課程
	與久田 巖	大阪夕陽丘学園短期大学	准教授
	福田 茉莉	島根大学 医学部環境保健医学講座	助教
	西川 大輔	南山城支援学校	教諭
	目黒 朋	大阪健康福祉短期大学	教授
	岡部 茜	大谷大学	講師
	坪井 宏仁	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	准教授
	坂本 貴和子	大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所総合生理研究部門	特任准教授
	渡辺 英治	大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所	准教授
宮 裕昭	福知山市民病院	臨床心理士	
研究所・センター構成員 計 181 名 (うち学内の若手研究者 計 61 名)			

III. 研究業績 (公開項目)

※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	稲葉 光行	Grounded Text Mining Approach: A Synergy between Grounded Theory and Text Mining, A. Bryant and K. Charmaz (Eds.), The	共著	2019年4月	SAGE Publications Ltd.	Hisako Kakai	332-351

		SAGE Handbook of Current Developments in Grounded Theory.					
2	稲葉 光行	人間科学と混合研究法の未来 (インクルーシブ社会研究19)	編著	2020年3月	立命館大学人間科学研究所	稲葉光行 (編)	
3	林 勇吾	Intelligent Tutoring Systems:15th International Conference, ITS 2019	共編著	2019年6月	Springer: Lecture Notes in Computer Science book series (LNCS, volume 11528)	Andre Coy, Yugo Hayashi, Maiga Chang (Editors)	1-246
4	大谷 いづみ	「第13章 安楽死と尊厳死」伏木信次・櫻則章・霜田求編『生命倫理と医療倫理 第4版』	分担執筆	2020年3月	金芳堂		144-153
5	山崎 優子	稲葉光行 (編) ワードマップ「法心理・司法臨床」・死刑に対する市民の認識 (印刷中)	分担執筆	2019年	新曜社		
6	山崎 優子	赤池一将 (編) 刑事施設の医療をいかに改革するか・第1部[5]刑事施設医療に関する市民意識調査	共著	2020年2月	日本評論社	相澤育郎・山崎優子	136-155
7	松本 克美	「尊厳ある社会」に向けた法の貢献 社会法とジェンダー法の協働・浅倉むつ子先生古稀記念論文集	共著	2019年10月	旬報社	島田陽一・米津孝司・菅野淑子編	421-433
8	松本 克美	土地住宅の法理論と展開・藤井俊二先生古稀祝賀論文集	共著	2019年12月	成文堂	花房博文・宮崎淳・大野武編	403-419
9	松本 克美	法と心理学への招待	共著	2019年12月	有斐閣	サトウタツヤ・若林宏輔・指宿信・松本克美・廣井亮一	151-193
10	安田 裕子	本書が拓く新しい視角—保育実践研究がもたらすTEAの新展開 (中坪史典 (編), 複線径路・等至性アプローチ (TEA) が拓く保育実践のリアリティ)	単独	2019年7月	特定非営利活動法人 ratik	安田裕子	428-431
11	安田 裕子	TEA (複線径路等至性アプローチ) (サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実 (編), ワードマップ 質的研究法マッピング)	単独	2019年9月	新曜社	安田裕子	16-22
12	サトウタツヤ	Money for Ordinary Things—Clean or Dirty? Money:Ordinary Things but Deeply Culturally Embedded Phenomenon. In Giuseppina Marsico and Luca Tateo (Eds.) Ordinary Things and Their Extraordinary Meanings (Annals of Cultural Psychology), Chap 8.	共著	2019年6月	Information Publishing Age	Tatsuya Sato, Hideaki Kasuga, and Akinobu Nameda	145—156
13	サトウタツヤ	ワードマップ 質的研究法マッピング	共編著	2019年9月	新曜社	サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実	1-272
14	サトウタツヤ	法と心理学への招待	共著	2019年12月	有斐閣	サトウタツヤ・若林宏輔・指宿信・松本克美・廣井亮一	1-263
15	サトウタツヤ	心理学・入門 [改訂版]	共著	2019年12月	有斐閣	渡邊芳之	1-18, 21-46, 91-126,194-212
16	サトウタツヤ	Birth of Trajectory Equifinality Approach (TEA) and the Pocket	単著	2020年3月	Information Publishing Age	Tatsuya Sato	159—170

		Money Project: Effort to Theorize the Flow of Time. In Takahashi and Yamamoto (Eds.) Children and Money Cultural Developmental Psychology of Pocket Money					
17	三田村 仰	三田村仰「行動療法のケースフォーミュレーション：文脈的アプローチからの私案」林直樹・下山晴彦・精神療法編集部（編）「精神療法増刊第6号 ケースフォーミュレーションと精神療法の展開」	分担執筆	2019年6月	金剛出版		27-34
18	三田村 仰	日本認知・行動療法学会（編集）三田村仰. アクセプトランス&コミットメント・セラピーの基礎理論 p.20-21, 瀬口篤史・三田村仰. 症状や問題行動の自己評価, p.180-181. 三田村仰. アサーション・トレーニング p.462-463 『認知行動療法辞典』日本認知・行動療法学会（編集）	分担執筆	2019年9月	丸善出版		
19	三田村 仰	三田村 仰 習慣逆転法 p.568-571. 三田村仰. アクセプトランス&コミットメント・セラピー p.618-621『行動分析学事典』日本行動分析学会（編）	分担執筆	2019年9月	丸善出版		
20	三田村 仰	三田村 仰「臨床行動分析的な心理療法に対する分析」武藤崇（編）『臨床言語心理学の可能性』	分担執筆	2019年9月	社晃洋書房		147-162
21	山浦 一保	第2巻人を活かす-人事部門 第6章 職場の人間関係と人間関係管理 「JAIOP 35周年記念企画（講座本）」	共著	2019年9月	北大路書房	小野公一（編著）他	127-148
22	神崎 真実	質的研究法マッピング—特徴をつかみ、活用するために	共編著	2019年9月	新曜社	サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実（編）	iii ~ vi , 198-203
23	春日井 敏之	春日井敏之・山岡雅博編著『生徒指導・進路指導』・「チームで対応する生徒指導」	共編著	2019年4月	ミネルヴァ書房	春日井敏之	73-89
24	春日井 敏之	春日井敏之・渡邊照美編著『教育相談』・「教育相談とリスクマネジメント」	編著	2019年5月	ミネルヴァ書房		206-224
25	春日井 敏之	山内清郎・原清治・春日井敏之編著『教育原論』・「教育の現代的な課題—『いじめ・不登校問題』と教育実践—」	編著	2020年3月	ミネルヴァ書房		164-181
26	北出 慶子	留学生とともに学ぶ国際共修—効果的な授業実践へのアプローチ 第13章「国際共修授業の評価」北出慶子	分担執筆	2019年10月	東信堂	末松和子・秋庭裕子・米澤由香子（編）	279-304
27	北出 慶子	留学生とともに学ぶ国際共修—効果的な授業実践へのアプローチ 第10章「日本におけるグッドプラクティス：調査のまとめと分析」北出慶子・尾中夏美	分担執筆	2019年10月	東信堂	末松和子・秋庭裕子・米澤由香子（編）	210-229

28	北出 慶子	Chapter title: Pragmatics of Asynchronous Computer-Mediated Communication Book title: The Concise Encyclopedia of Applied Linguistics, Carol Chapelle (Ed.)	分担執筆	2020年1月	Oxford, UK: Wiley-Blackwell	Keiko Kitade	
29	山口 洋典	『ファシリテーションの教科書』(「ストーリーテリング」, 「堂本印象旧邸宅の活用～四面会議システムを用いた地域経営への事起こし～」, 「AoH (アート・オブ・ホスティング) ～誰もがやさしく、かしこく社会を導いていく知恵～」)	分担執筆	2019年10月	昭和堂	山口洋典 (鈴木康久・嘉村賢州・谷口知弘 編)	30-31, 122-125, 174-177
30	土田 宣明	研究テーマ別 注意の生涯発達心理学 第6章注意の切り替えと持続	分担執筆	2020年3月	ナカニシヤ出版	土田宣明	73-84
31	土田 宣明	基礎から学べる 医療現場で役立つ心理学	編著	2020年3月	ミネルヴァ書房	大川一郎・土田宣明・高見美保(編)	
32	谷 晋二	応用行動分析 (ABA)	分担執筆	2019年8月	丸善出版		234-235
33	谷 晋二	認知行動療法を実践する際の倫理	共編著	2019年8月	丸善出版		678-681
34	松田 亮三	The Atlas of Health Inequalities in Japan	分担執筆	2020年1月	Springer International Publishing	Ryozo Matsuda, Shigeru Inoue, Hiroyuki Kikuchi, Yuri Ito, Tomoki Nakaya et al.	161-245
35	松田 亮三	刑事施設の医療をいかに改革するか	分担執筆	2020年2月	日本評論社	赤池一将編著	506-527
36	松田 亮三	刑事施設の医療をいかに改革するか	分担執筆	2020年2月	日本評論社	赤池一将編著	375-407
37	津止 正敏	長寿社会を生きる一健康で文化的な介護保障へー	共著	2019年4月	新日本出版社	石田一紀・池上淳・津止正敏・藤本文郎	177 - 200
38	松原 洋子	「解説」松原洋子編『優生保護法関係資料集成』第1巻	単著	2019年12月	六花出版		1-4
39	松原 洋子	松原洋子編『優生保護法関係資料集成』第1巻～第3巻	その他	2019年12月	六花出版		
40	松原 洋子	「優生保護法の歴史と現在」花園大学人権教育研究センター編『「私」から始める支援の実践』	単著	2020年3月	批評社		73-89
41	中村 正	社会病理学の足跡と再構成	分担執筆	2019年10月	学文社	日本社会病理学会監修/朝田佳尚・田中智仁編	139-167
42	北岡 明佳	トリックアート戦国時代 (トリックアートアドベンチャー)	監修	2019年6月	あかね書房	北岡 明佳 (監修), グループコロンブス	
43	北岡 明佳	世界一不思議な錯視アート	単著	2019年7月	カンゼン	北岡明佳	
44	北岡 明佳	イラストレイテッド 錯視のしくみ	単著	2019年9月	朝倉書店	北岡明佳	
45	北岡 明佳	「錯視は美しい」理由を考える in 三浦佳世・河原純一郎 (編著) 「美しさと魅力の心理」	分担執筆	2019年10月	ミネルヴァ書房	北岡明佳	146-147
46	北岡 明佳	錯視と仕事 in 太田信夫 (監修)・行場次朗 (編集) 「シリーズ心理学と仕事1 感覚・知覚心理学」	分担執筆	2019年11月	北大路書房	北岡明佳	57-73

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	稲葉 光行	臨床研究コーディネーターの他者とのかかわりを通じた学び—インタビュー調査から—	共著	2019年12月	立命館人間科学研究(40号)	村田京子, 稲葉光行	59-70	
2	稲葉 光行	法科学の再構築—ご鑑定防止の司法・社会システムの修復に向けて	共著	2020年3月	立命館人間科学研究(41号)	平岡義博・稲葉光行・藤田義彦・千原國宏・木村祐子	39-60	
3	林 勇吾	Multiple Pedagogical Conversational Agents to Support Learner-Learner Collaborative Learning: Effects of Splitting Suggestion Types	単著	2019年5月	Cognitive Systems Research(54巻)	Hayashi, Y.	246-257	
4	林 勇吾	Detecting Collaborative Learning through Emotions: An Investigation using Facial Expression Recognition	単著	2019年6月	Proceeding of the 15th International Conference on Intelligent Tutoring Systems(ITS2019)(LNCS 11528巻)	Hayashi, Y.	89-98	
5	林 勇吾	Effect of Suggestions from a Physically Present Robot on Creative Generation	共著	2019年7月	Proceedings of the 41st Annual Conference of the Cognitive Science Society(CogSci2019)	Maehigashi, A. Hayashi, Y.	2242-2247	
6	林 勇吾	What are you talking about?: A Cognitive Task Analysis of how specificity in communication facilitates shared perspective in a confusing collaboration task	共著	2019年7月	Proceedings of the 41st Annual Conference of the Cognitive Science Society(CogSci2019)	Hayashi, Y. Koedinger, K.	1887-1893	
7	林 勇吾	知的学習支援システムによる協同学習の支援に向けて: 視線情報と言語情報を用いた学習プロセスの推定モデル	単著	2019年9月	認知科学(26巻3号)	林勇吾	343-356	
8	林 勇吾	How shared concept mapping facilitates explanation activities in collaborative learning: An experimental investigation into learning performance in the context of different perspectives	共著	2019年12月	Proceedings of the 27th International Conference on Computers in Education(ICCE2019)	Shimojo, S. and Hayashi, Y.	172-177	
9	林 勇吾	Experimental investigation on the influence of prior knowledge of a decision-support robot for court juries	共著	2020年3月	Proceedings of the 15th Annual ACM/IEEE International Conference on Human Robot Interaction (HRI2020)	Hayashi, Y. and Wakabayashi, K.	236-238	
10	山崎 優子	父子関係の推定とDNA鑑定—市民意識調査から考える立法の課題—	共著	2019年11月	立命館人間科学研究(40巻)	山崎優子・金成恩	15-26	
11	山崎 優子	東アジア法と心理学カンファレンス 第12回大会参加報告	単著	2019年12月	法と心理(19巻1号)	山崎優子	75-77	
12	山崎 優子	法学的知識・心理学的知識の字義的理解と受容が有罪無罪判断に及ぼす影響	単著	2020年3月	哲学(144巻)	山崎優子	177-199	
13	山崎 優子	公訴時効制度に対する市民の認識—インターネットに	単著	2020年3月	地域情報研究—立命館地域情報研究所紀要—(9巻)	山崎優子	71-81	

		よる調査結果をふまえて一						
14	仲 真紀 子	事情聴取における聴取者の 発問タイプと被聴取者から 得られる情報量の関連	共著	2019年	立命館人間科学研究(38巻)	山本渉太・山元修 一・渋谷友祐・仲真 紀子	47-57.	
15	仲 真紀 子	子どもの司法面接・協同面 接の現状と課題	単著	2019年	社会安全・警察学(5巻)	仲真紀子	33-40	
16	仲 真紀 子	司法における多専門・多職 種連携と心理学—外国人被 告人の心理査定—	共著	2019年	法と心理(18巻1号)	赤嶺亜紀・田中周 子・田中晶子・柴田 勝之・尾崎友里加・ 仲 真紀子	56-62	
17	平岡 義 博	法科学の再構築—誤鑑定防 止のための司法・社会シス テムの修復に向けて	共著	2020年3 月	立命館人間科学研究(41号)	平岡義博、稲葉光 行、藤田義彦、千原 國宏、木村祐子	39-60	
18	松本 克 美	マンション売買契約におけ る契約不適合責任	単著	2019年4 月	マンション学(62号)	松本克美	54-60	
19	松本 克 美	民法724条の「不法行為の 時」の解釈基準と「損害の 性質」に着目した不法行為 類型	単著	2019年12 月	立命館法学(385号)	松本克美	1274-1308	
20	岡本 尚 子	算数・数学科の図形や座標 学習に関わる地図認識の特 性—視線計測研究による 分析を通して—	共著	2020年3 月	数学教育学会誌(60巻3・4号)	岡本尚子, 黒田恭史	25-34	
21	岡本 尚 子	系列表示された空間位置の 情報の保持と処理に関わる 脳活動の検討	共著	2020年3 月	立命館産業社会論集(55巻4 号)	肥後克己, 岡本尚 子, 荻阪満里子	65-76	
22	安田 裕 子	司法面接と心身のケアの連 携を促進する研修プログラ ムの開発	共著	2019年12 月	子どもの虐待とネグレクト (21巻3号)	田中晶子・安田裕 子・上宮愛	365-368	
23	安田 裕 子	法と心理学会第19回大会 ワークショップ 虐待を受 けた子どもへの包括的支援 を考える—「捜査とケア」 二者択一から両立へ	共著	2019年12 月	法と心理(19巻1号)	田中晶子・安田裕 子・上宮愛・片岡笑 美子・鈴木聡・西部 智子・仲真紀子	47-53	
24	安田 裕 子	「ものづくり」に質的研究 はどう貢献できるか?— ものづくり質的研究の構想 について	共著	2020年3 月	立命館人間科学研究(41号)	隅本雅友・安田裕 子・斎藤進也・神崎 真実・菅井育子・サ トウタツヤ	29-37	
25	安田 裕 子	Career Development during the School-to-Work Transition among the Students of Middle-Ranked Universities in Japan	共著	2020年	Journal of Asian Vocational Education and Training(12 号)	Banda, K., Sato, T., Yasuda, Y., Toyoda, Y., & Sugimori, S.	in press	
26	サトウタ ツヤ	転職研究における「個人と 社会との相互作用」のアプ ローチ	共著	2019年4 月	キャリア教育研究(37巻2号)	土元 哲平, サトウ タツヤ	35-44	
27	サトウタ ツヤ	[心理学史 諸国探訪] イ タリア	単著	2019年4 月	心理学ワールド(85号)	サトウタツヤ	29	
28	サトウタ ツヤ	福島、ふくしま、 Fukushima (5) 対人援 助学&心理学の縦横無尽 (26)	単著	2019年6 月	対人援助学マガジン(36号)	サトウタツヤ	86-96	
29	サトウタ ツヤ	[心理学史 諸国探訪] タ イ	単著	2019年7 月	心理学ワールド(86号)	サトウタツヤ	29	
30	サトウタ ツヤ	[心理学史 諸国探訪] イ ンドネシア	単著	2019年11 月	心理学ワールド(87号)	サトウタツヤ	29	
31	サトウタ ツヤ	質的アプローチに対するの は量的アプローチではな く、統計量アプローチでは ないか? 対人援助学&心 理学の縦横無尽 (27)	単著	2019年12 月	対人援助学マガジン(39号)	サトウタツヤ	80-87	

32	サトウタツヤ	心理学史におけるナラティブの役割	単著	2020年1月	N:ナラティブとケア(11巻)	サトウタツヤ	11-21	
33	サトウタツヤ	[心理学史 諸国探訪] デンマーク	単著	2020年2月	心理学ワールド(88号)	サトウタツヤ	29	
34	サトウタツヤ	成長の瞬間を生み出す「よいキャリア支援」の意味感覚:TAEステップを用いた理論構築	共著	2020年3月	質的心理学研究(19巻)	土元哲平・小田友理恵・サトウタツヤ	46-67	
35	サトウタツヤ	「利他の心」に基づく社会の実現に向けて 稲盛経営哲学は何をもたらすのか?:フィロソフィの共有・浸透における抵抗勢力の役割	共著	2020年3月	立命館大学稲盛経営哲学研究センター研究成果報告集 2015年度-2019年度(1巻)	山浦一保・サトウタツヤ・河野達仁・河井亨	14-17	
36	サトウタツヤ	「ものづくり」に質的研究はどう貢献できるか?—ものづくり質的研究の構想について	共著	2020年3月	立命館人間科学研究(41巻)	隅本雅友・安田裕子・斎藤進也・神崎真実・菅井育子・サトウタツヤ	29-37	
37	サトウタツヤ	東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2017年第2回双葉郡住民実態調査—	共著	2020年3月	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編(36号)	丹波 史紀, 佐藤 慶一, サトウ タツヤ, 清水 晶紀, 関谷 直也, 廣井 悠, 除本 理史, 安本 真也		
38	サトウタツヤ	盛和塾企業における稲盛経営哲学の浸透	共著	2020年3月	立命館大学稲盛経営哲学研究センター研究成果報告集 2015年度-2019年度(1巻)	サトウタツヤ・澤野美智子	24-27	
39	サトウタツヤ	Situational Experience around the World:A Replication and Extension in 62 Countries	共著	2020年	Journal of Personality	Daniel I. Lee, Gwendolyn Gardiner, Erica Baranski, Erica Baranski, Members of the International Situations Project and Funder, D.C.		
40	三田村 仰	A randomized controlled trial of a bidirectional cultural adaptation of cognitive behavior therapy for children and adolescents with anxiety disorders	共著	2019年7月	Behaviour Research and Therapy(120巻)	Ishikawa, S.-i., Kikuta, K., Sakai, M., Mitamura, T., Motomura, N., & Hudson, J. L.	103432	
41	斎藤 進也	Research on the Activities to Make Various Local Resources into a Game: The Possibility of "Community Game"	単著	2019年8月	Replaying Japan 2019 Conference Abstracts	Shinya Saito	84-87	
42	斎藤 進也	「週」の集積としてのライフ・モデリング:日々の生活から長い人生への道すじ	共著	2020年3月	立命館映像学(12巻)	斎藤進也、脇阪颯太	pp.29-44	
43	斎藤 進也	日本のロックの黎明期における京都の音楽シーンとその周辺について	共著	2020年3月	アート・リサーチ(20巻)	竹田章作、斎藤進也	91-105	
44	斎藤 進也	視覚的注意反応を利用したバイオバンク・インタラクティブコンテンツ「GAZE EATER」の制作	共著	2020年3月	情報処理学会インタラクシヨ ン2020 予稿	脇阪 颯太、斎藤 進也	271-275	
45	山浦 一保	Perceived goal instrumentality is associated with forgiveness: A test of the valuable relationships hypothesis	共著	2019年	Evolution and Human Behavior(41巻)	Smith, A., McCauley, T. G., Yagi, A., Yamaura, K., Shimizu, H., McCullough, M. E., Ohtsubo, Y.	58-68	
46	澤野 美智子	序・語りを架橋する—異なる「正しさ」を持つ語り	単著	2019年8月	Contact Zone(11巻)	澤野美智子	235-248	

		についての試論						
47	澤野 美智子	特集・証言・告白・愁訴：医療と司法における語りの現場から一はじめに	共著	2019年8月	Contact Zone(11巻)	田中雅一・澤野美智子	233-234	
48	春日井敏之	なぜ通信制高校は増えたのか：後期中等教育変容の一断面	共著	2019年12月	教育社会学研究(105巻)	内田康弘・神崎真実・土岐玲奈・濱冲敢太郎	5-26	
49	春日井敏之	「子どもによりそう」ということーおたやかな新学期のためにー	単著	2019年4月	日本生活教育連盟編『生活教育』(845号)	春日井敏之	44-51	
50	春日井敏之	教育現場に立脚した臨床教育学の展開ー教職大学院と教育現場から理論と実践の往還・融合を考えるー	単著	2020年3月	立命館大学実践教育学会・立命館大学大学院教職研究科編『立命館実践教育研究』(創刊号)		23-35	
51	北出 慶子	外国人・留学生支援ボランティア活動を通じた学びと課題ー日本語教育人材育成のための多文化サービス・ラーニング開発に向けた系統的レビューの試みー	単著	2020年3月	立命館言語文化研究(31巻3号)	北出慶子	19-38	
52	肥後 克己	系列显示された空間位置の情報の保持と処理に関わる脳活動の検討	共著	2020年3月	立命館産業社会論集(55巻4号)	肥後克己、岡本尚子、苧阪満里子	65-76	
53	山口 洋典	PBLの風と土：(9)サービス・ラーニングは中道を歩むもの	単著	2019年6月	対人援助学マガジン(10巻1号)	山口洋典	207-212	
54	山口 洋典	大学地域連携による学生住民の地域混住を通じたコミュニティの活性化	共著	2019年7月	都市住宅学(106号)	山口洋典・赤澤清孝・深尾昌峰	14-23	
55	山口 洋典	PBLの風と土：(10)穴を埋めるのではなく良い点を伸ばして	単著	2019年9月	対人援助学マガジン(10巻2号)	山口洋典	208-213	
56	山口 洋典	PBLの風と土：(11)自らの未知なる環境に身を置いてみよう	単著	2019年12月	対人援助学マガジン(10巻3号)	山口洋典	180-185	
57	山口 洋典	地域参加学習において言語化を促進する意味とその方途	単著	2020年1月	立命館言語文化研究(31巻3号)	山口洋典	73-87	
58	山口 洋典	PBLの風と土：(12)手続きや内容より関係構築にこそ重点を	単著	2020年3月	対人援助学マガジン(10巻4号)	山口洋典	197-202	
59	土田 宣明	実行機能の形成と衰退：抑制に注目して	共著	2019年12月	発達心理学研究(30巻4号)	土田宣明・坂田陽子	176-187	
60	谷 晋二	ACTの人生の意味とケースフォーミュレーション	単著	2019年5月	精神療法(6号)	谷 晋二	202-210	
61	谷 晋二	Brief ACT Training for Human Service Professionals in Japan	共著	2019年6月	立命館人間科学研究(40巻)	Shinji TANI & Kotomi KITAMURA	27-44	
62	松田 亮三	高齢期の健康格差縮小に向けてー「誰一人取り残さない」社会保護から備える	単著	2020年1月	連合総研レポート(33巻1号)	松田亮三	10-14	
63	松田 亮三	医師の「働き方改革」ー医師労働力と医療供給をめぐる複合的政策課題	単著	2020年3月	医療福祉政策研究(3巻1号)	松田亮三	29-37	
64	津止 正敏	高齢者を介護する家族への支援の現状と課題	単著	2019年6月	月刊福祉	津止正敏		
65	津止 正敏	家族介護者の変容と介護問題研究の課題	単著	2019年10月	日本看護福祉学会誌(Vol.25巻No.1号)	津止正敏	34-41	
66	津止 正敏	男性介護者のネットワーク	単著	2020年3月	社会と調査(24号)	津止正敏	97	
67	松原 洋子	「優生学と生命倫理」	単著	2019年7月	『響き合う街で』(89号)	松原洋子	22-25	
68	中村 正	臨床社会学の方法(25) 情状を問うことの意味ーナラ	単著	2019年6月	対人援助学マガジン(10巻1号)		21-29	

		タイプと動機の語彙-						
69	中村 正	性暴力加害者をなくすための「教育」からみた支援	単著	2019年7月	日本性科学会雑誌(37巻1号)		13-23	
70	中村 正	臨床社会学の方法(26)認知的不正義-加害者更生のために-	単著	2019年9月	対人援助学マガジン(10巻2号)		22-33	
71	中村 正	ハラスメント加害者の更生はいかにして可能か-加害者への臨床心理社会的な実践をもとにして考える-	単著	2019年11月	日本労働研究雑誌(労働政策研究・研修機構)(712号)		86~97	
72	中村 正	臨床社会学の方法 (27) 家族問題と治療的司法	単著	2019年12月	対人援助学マガジン (対人援助学会) (10巻3号)		20~27	
73	中村 正	臨床社会学の方法 (28) 男性同士の関係性-男どうしの親密さと脱暴力-	単著	2020年3月	対人援助学マガジン (対人援助学会) (10巻4号)		21~29	
74	東山 篤規	Somatic perception of floor inclination.	共著	2019年8月	Acta Psychologica(199巻102896号)	山崎校		
75	北岡 明佳	Reversed phi and the phenomenological phenomena” revisited	共著	2019年7月	i-Perception(10巻4号)	Rogers, B., Anstis, S., Ashida, H., and Kitaoka, A.	1-12	
76	北岡 明佳	OICに日本心理学会がやってくる	単著	2019年7月	RADIANT (立命館大学研究部) (11巻)	北岡明佳	27	
77	村本 邦子	周辺からの記憶 23: 2015年12月シンポジウム 東日本家族応援プロジェクト 5年を振り返る	単著	2019年6月	対人援助学マガジン(10巻1号)		142-164	
78	村本 邦子	周辺からの記憶 24: 2016年むつ・多賀城・宮古	単著	2019年9月	対人援助学マガジン(10巻2号)		136-155	
79	村本 邦子	周辺からの記憶25: 2016年度 福島・シンポジウム	単著	2019年12月	対人援助学マガジン(10巻3号)		128-138	
80	村本 邦子	物語のはじまりとしての『風の歌を聴け』-「僕」は何に病んで自己療養に向かうのか	単著	2020年2月	MURAKAMI REVIEW(1巻)		1-16	
81	村本 邦子	周辺からの記憶 26: 2017年度 福島・むつ・多賀城・岩手	単著	2020年3月	対人援助学マガジン(10巻4号)		146-156	
82	美馬 達哉	「マイノリティ・アーカイブズの言挙げ」	単著	2019年10月	立命館生存学研究(3巻)			
83	美馬 達哉	Transcranial Direct Current Stimulation Improves Pusher Phenomenon.	共著	2019年	Case Rep Neurol(11号)	Yamaguchi T, *Satow T, Komuro T,		
84	美馬 達哉	「研究不正からみえる科学の現代」	単著	2019年	地盤工学会誌(67巻6号)	美馬達哉		
85	美馬 達哉	Gait-synchronized rhythmic brain stimulation improves post-stroke gait disturbance: a pilot study.	共著	2019年	Stroke(50巻11号)	*Koganemaru S, Kitatani R, Fukushima-Maeda A, Mikami Y, Okita Y, Matsuhashi M, Ohata K, Kansaku K,		
86	美馬 達哉	「Locked-in state (LIS)・Minimally conscious state (MCS)・Vegetative state (VS)に関する最近の知見」	単著	2020年1月	脳神経内科			
87	美馬 達哉	「tSMS(transcranial static magnetic stimulation)」	共著	2020年1月	Clinical Neuroscience(38巻1号)	芝田純也		

88	美馬 達 哉	Effects of bilateral anodal transcranial direct current stimulation over the tongue primary motor cortex on cortical excitability of the tongue and tongue motor functions	共著	2020年	Brain Stimul(13巻1号)	*Maezawa H, Vicario CM, Kuo MF, Hirata M, Nitsche MA		
89	美馬 達 哉	Transcranial Direct Current Stimulation for a Patient with Locked-in Syndrome.	共著	2020年	Brain Stimul(2020巻)	*Satow T, Komuro T, Yamaguchi T, Tanabe N		
90	美馬 達 哉	Gait-synchronized oscillatory brain stimulation modulates common neural drives to ankle muscles in patients after stroke: a pilot study.	共著	2020年	Neurosci Res.	*Kitatani R, Koganemaru S, Maeda A, Mikami Y, Matsuhashi M, Yamada S.		
91	美馬 達 哉	Cerebellar transcranial alternating current stimulation modulates human gait rhythm.	共著	2020年	Neurosci Res.	*Koganemaru S, Mikami Y, Matsuhashi M, Truong DQ, Bikson M, Kansaku K		
92	美馬 達 哉	Intraoperative electrophysiological mapping of medial frontal motor areas and functional outcomes.	共著	2020年	World Neurosurgery	Shibata S, Yamao Y, Kunieda T, Inano R, Nakae T, Nishida S, Inada T, Takahashi Y, Kikuchi T, Arakawa Y, Yoshida K, Matsumoto R, Ikeda A, *Miyamoto S.		
93	美馬 達 哉	The effects of transcranial static magnetic fields stimulation over the supplementary motor area on anticipatory postural adjustments.	共著	2020年	Neuroscience Letters	Tsuru D, Watanabe T, Chen X, Kubo N, Sunagawa T, *Kirimoto H.		
94	美馬 達 哉	Effect of transcranial static magnetic stimulation on intracortical excitability in the contralateral primary motor cortex.	共著	2020年	Neuroscience Letters	Shibata S, Watanabe T, Yukawa Y, Minakuchi M, Shimomura R		
95	美馬 達 哉	Smaller muscle mass is associated with increase in EMG-EMG coherence of the leg muscle during unipedal stance in elderly adults.	共著	2020年	Human Movement Science(71巻)	Nojima I, Suwa Y, Sugiura H, Noguchi T, Tanabe S, Watanabe T		
96	美馬 達 哉	Comparison of Phase Synchronization Measures for Identifying Stimulus-Induced Functional Connectivity in Human Magnetoencephalographic and Simulated Data.	共著	2020年	Frontiers in Neuroscience	Yohisnaga, K., Matsuhashi, M., , Fukuyama, H., Takahashi, R., *Hanakawa, T. Ikeda, A.		

3. 研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
-----	----	------	------	------------	---------

1	稲葉 光行	グラウンデッドなテキスト・マイニング・アプローチ (GTxA)	2019年9月	第3回 MMIRA アジア地域会議/第5回日本混合研究法学会年次大会	
2	稲葉 光行	法科学教育にむけて～米国の法科学教育の動向からの考察～	2019年10月	「科学的証拠の信頼性評価法と標準鑑定法の確立に向けて」研究会	
3	稲葉 光行	米国の目撃証言に関するガイドラインと司法判断	2019年10月	法と心理学会第20回大会・ワークショップ「目撃証言の信頼性評価－司法判断と心理学的知見の乖離について」	
4	稲葉 光行	Children's civic engagement through university-community collaboration in Japan	2020年2月	University-Community Links (UCLinks) Conference 2020	
5	林 勇吾	コンセプトマップを用いた協同学習ペアの説明活動に関する実験的検討:学習パフォーマンスにおける理解度と異なる視点の発現に着目した分析	2019年5月	電子情報通信学会技術研究報告, 119(38)	下條志敏
6	林 勇吾	他者の知識を可視化した協同学習における会話活動と学習パフォーマンスの関係性: ターンテイキングと知識の収束に着目して	2019年9月	日本認知科学会第35回大会発表論文集	下條 志敏
7	大谷 いづみ	「優生保護法と安楽死・尊厳死運動史」	2019年8月	「第2回生命倫理政策史研究会——優生保護法史の多角的検討」	
8	大谷 いづみ	「ハンドル形電動車いすの移動アクセシビリティ——英米仏独伊韓の実態調査」	2019年9月	障害学会第16回京都大会	川畑美季
9	大谷 いづみ	「障害と安楽死・尊厳死言説——高齢化社会における「死ぬ権利」と「死ぬ義務」	2019年10月	第9回障害学国際セミナー 2019	
10	仲 真紀子	「司法面接」子どもから正確な証言を引き出す技術(10)面接の構造④適切な対応につなげる	2019年4月	教育新聞	
11	仲 真紀子	子どものための司法面接第17回 いじめの話聞く(12) 面接の締めくくり	2019年4月	内外教育	
12	仲 真紀子	子どものための司法面接第18回 いじめの話聞く(13) 重大事態調査委員会による調査	2019年5月	内外教育	
13	仲 真紀子	子どものための司法面接第19回 障害のある子どもへの調査	2019年6月	内外教育	
14	仲 真紀子	子どものための司法面接最終回 虐待を打ち明けられたら	2019年7月	内外教育	
15	平岡 義博	科学鑑定はどこまで信用できるか	2019年6月	法学会春学期学術講演会	
16	平岡 義博	科学鑑定はどこまで信用できるか? 科研費研究成果報告, 2019.10.5, 大阪いばらきキャンパス.	2019年10月	科研費研究成果報告会	藤田義彦, 稲葉光行, 千原國宏, 木村祐子
17	平岡 義博	科学鑑定の結果表現における鑑定者の心理	2019年10月	日本法と心理学会第20回大会	
18	松本 克美	マンション売買契約における契約不適合責任	2019年4月	日本マンション学会 2019年福岡大会	
19	松本 克美	日本の性暴力被害と消滅時効起算点: 釧路事件を中心として	2019年5月	<日韓フォーラム>性暴力被害者の損害賠償請求権と消滅時効	
20	松本 克美	人格的利益侵害と民事消滅時効—修復的正義・司法の	2019年6月	第45回修復的司法セミナー	

		観点から			
21	松本 克美	人格的利益侵害による損害賠償請求権の消滅時効をめぐる解釈論的・立法論的課題－修復的正義・司法の観点から	2019年6月	末川民事法研究会	
22	岡本 尚子	学習中の助言が学習者に与える影響	2019年5月	第37回日本生理心理学会大会	黒田恭史
23	岡本 尚子	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討	2019年5月	第37回日本生理心理学会大会	肥後克己, 孫怡, 妹尾麻美, 神崎真実, 川本静香, 中田友貴, 矢藤優子, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子
24	岡本 尚子	立体図形課題遂行時における学習者の思考過程の分析－脳活動計測を通して－	2019年6月	数学教育学会夏季研究会(関西エリア)	木下卓海, 黒田恭史
25	岡本 尚子	Characteristics of Brain Activity in Students Alternating Between Teaching And Learning Roles	2019年7月	The 43rd Annual Meeting of the International Group for the Psychology of Mathematics Education	Yasufumi Kuroda
26	岡本 尚子	The validity of the Japanese guidance by the multi-lingual mathematics Video	2019年8月	8th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese	黒田恭史
27	岡本 尚子	Mathematics Education Research Using a Physiological Approach: An Eye-Tracking Study	2019年8月	MME seminar 2019(Mathematics and Mathematics Education, National Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore)	
28	岡本 尚子	視線移動・脳活動の同時計測による立体図形課題遂行時の思考分析	2019年9月	第44回教育システム情報学会全国大会	木下卓海, 黒田恭史
29	岡本 尚子	YouTubeによる多言語対応算数・数学学習支援システム－持続可能性実現のための運営経費低減の試み－	2019年9月	第44回教育システム情報学会全国大会	黒田恭史
30	岡本 尚子	How direct or indirect social interaction affects the brain activities during the drum playing?	2019年10月	Society for Neuroscience 2019	Hideo Eda, Tatsuro Sibuya, Miki Uchiyama, Tsutomu Tanaka, Madoka Yamazaki, Yasufumi Kuroda, Masayuki Satoh
31	岡本 尚子	Evaluation of the japanese eye typing system with eeg	2019年10月	Society for Neuroscience 2019	Isao Motoyama, T. Uda, Madoka Yamazaki, Yasufumi Kuroda, Hideo Eda
32	岡本 尚子	Changes in prefrontal brain activity associated with order information memory	2019年11月	Psychonomic Society's 60th Annual Meeting	Katsuki Higo, Mariko Osaka
33	岡本 尚子	Do eye movements visualize the thinking process of the mental formation of geometric figures?	2020年1月	The IAFOR International Conference on Education	Yasufumi Kuroda
34	岡本 尚子	立方体の切断課題における学習者の視線移動及び脳活動の特徴	2020年2月	教育システム情報学会 2019年度学生研究発表会	青木駿介, 黒田恭史
35	岡本 尚子	使用媒体の異なる立体図形課題における学習者の解決方略の特徴－生体情報を用いた分析を通して－	2020年3月	数学教育学会 2020年度春季年会	木下卓海, 黒田恭史
36	矢藤 優子	The relation between electronic device usage among mothers and young children and the mother-child relationship	2019年4月	International Conference on Research in Social Science & Humanities	

37	矢藤 優子	Relationships between Usage Pattern of Instagram and Public Self-Consciousness, Need for Praise, and Need for Rejection Avoidance in University Students	2019年5月	International Conference on Research in Teaching, Education & Learning	
38	矢藤 優子	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討	2019年5月	第37回 日本生理心理学会	肥後克己・岡本尚子・孫怡・妹尾麻美・神崎真実・川本静香・中田友貴・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子
39	矢藤 優子	Relationship between Performance and the Drawing Process on the Draw-a-Person Test	2019年8月	American Psychological Association 2019	Hirose, S., Araki, H., Wallon, P., Mesmin, C., & Jobert, M.
40	矢藤 優子	5ヵ月の乳児を持つ母親のかかわりと子どもの社会性発達の関連について	2019年9月	日本心理学会第83回大会	孫 怡・藤戸 麻美・連 傑濤・眞田 和恵・小島 晴予
41	矢藤 優子	ROCF 描画過程の8タイプ分類の有用性	2019年11月	第43回 日本高次脳機能障害学会学術総会	依光美幸・塚田賢信・天野京子・長尾卯乃・幕内充・廣瀬翔平・山田良治
42	矢藤 優子	2歳児の食事場面における問題行動についてー中国における行動観察の試みー	2020年3月	日本発達心理学会 第31回大会	孫怡・姜娜・連傑濤・矢藤優子
43	矢藤 優子	シームレスな対人支援に基づく人間科学の創成	2020年3月	日本発達心理学会 第31回大会	肥後克己・安田裕子・サトウタツヤ・神崎真実
44	安田 裕子	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討	2019年5月	第37回日本生理心理学会大会	肥後克己・岡本尚子・孫怡・妹尾麻美・神崎真実・川本静香・中田友貴・矢藤優子・サトウタツヤ・鈴木華子
45	安田 裕子	司法面接における多職種連携ー心身のケアの視点を取りこんで	2019年6月	日本心理臨床学会第38回大会	上宮愛・田中晶子
46	安田 裕子	What happens on 'Bifurcation Points': Based on the methodology of Trajectory Equifinality Approach (TEA)	2019年8月	the 18th International Society for Theoretical Psychology	
47	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) を学ぶー実践編	2019年9月	日本心理学会第83回大会	サトウタツヤ
48	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) を学ぶー理論編	2019年9月	日本心理学会第83回大会	サトウタツヤ
49	安田 裕子	未来志向のものづくりー質的なアプローチがなせること	2019年9月	日本心理学会第83回大会	サトウタツヤ・隅本雅友・斎藤進也・川野健治・宮下太陽・神崎真実
50	安田 裕子	子どもから話をきく方法ー司法面接 (NICHD ガイドライン) を学ぼう (2) (事実確認とケアの連携 フェーストコンタクト) (指定討論)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	羽瀧由子・仲真紀子・田中周子・上宮愛・佐々木真吾・田中晶子・赤嶺亜紀
51	安田 裕子	子どもから話をきく方法ー司法面接 (NICHD ガイドライン) を学ぼう (1)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	羽瀧由子・上宮愛・赤嶺亜紀・佐々木真吾・仲真紀子・田中周子・田中晶子
52	安田 裕子	子どもから話をきく方法ー司法面接 (NICHD ガイドライン) を学ぼう (3)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	羽瀧由子・田中晶子・田中周子・赤嶺亜紀・上宮愛・仲真紀子・佐々木真吾
53	安田 裕子	全体会 EVERYTHING IS ALL RIGHT WITH TEA (as long as it keeps developing) (あらゆることが TEA と共にあって良い	2019年9月	The 2nd Transnational Meeting on TEA (第2回 TEA 国際学会)	Jaan Valsiner・土元哲平・宮下太陽・小澤伊久美・伴野崇生・滑田明暢・サトウタツヤ

		(それが発達し続けている 限りにおいて)) (企画・司 会)			
54	安田 裕子	TEA と DST を用いた「キ ャリアワークシート」の教 育実践—語りへの接近	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	番田清美
55	安田 裕子	子育て中の妊娠女性におけ る生活の困難	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	妹尾麻美・三品拓人
56	安田 裕子	ものづくりと質的研究方法 論の再考—「ものづくり」 から見た質的研究の期待と 展望	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	隅本雅友・菅井育子・神崎真実・斎藤進也・ サトウタツヤ
57	安田 裕子	自動車・顧客を対象とした TEA (Trajectory Equifinality Approach) — 質的分析による未来ものづ くりの可能性	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・神崎真実・斎藤進也・ サトウタツヤ
58	安田 裕子	質的研究 (TEM) の実習デ ザイン—5 日間で伝わるこ と・伝わらないこと	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	神崎真実・菅井育子・隅本雅友・斎藤進也・ サトウタツヤ菅井育子・隅本雅友・神崎真 実・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
59	安田 裕子	シームレスな対人支援に基 づく人間科学の創成	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会	矢藤優子・肥後克己・妹尾麻美・サトウタ ツヤ・神崎真実
60	安田 裕子	保育カンファレンスにおけ る保育者の感情—視覚的ツ ール使用時における保育者 の語りと脳機能イメージン グ	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会	香曾我部琢・中坪史典・高橋健介・境愛一 郎・大森隆司
61	サトウタツ ヤ	唾液指標を用いた妊娠期女 性のストレス状態について の検討	2019年5月	日本生理心理学会大会	肥後克己, 岡本尚子, 孫怡, 妹尾麻美, 神 崎真実, 川本静香, 中田友貴, 矢藤優子, 安田裕子, 鈴木華子
62	サトウタツ ヤ	Transition as Dynamic Semiosis: The Autoethnographic Approach and Trajectory Equifinality Modeling	2019年7月	The 16th European Congress of Psychology	Tepei Tsuchimoto
63	サトウタツ ヤ	Transition to professional and career change in the era of career diversification	2019年7月	The 16th European Congress of Psychology	Taiyo Miyashita
64	サトウタツ ヤ	Voices of the Analysis: Alternative Orientation of Analytic Autoethnography	2019年8月	The 18th Biennial Conference of The International Society of Theoretical Psychology	Tepei Tsuchimoto
65	サトウタツ ヤ	「共感」についての印象の 検討—セマンティックプロ フィールを用いた印象の特 徴についての検討	2019年8月	日本パーソナリティ心理学会第28回大 会	中妻拓也
66	サトウタツ ヤ	教員志望学生に対するキャ リア支援モデルの生成— —大学教師へのインタビュー —による探求—	2019年9月	日本心理学会第83回大会	土元哲平
67	サトウタツ ヤ	(DVD 放映) 欲望の文明 から利他の文明へ	2019年9月	日本心理学会第83回大会	
68	サトウタツ ヤ	1950年代までの日本にお ける「共感」研究の動向と 転換点—1952年 前田論 文の提言による転換点	2019年9月	日本心理学会第83回大会	中妻拓也
69	サトウタツ ヤ	キャリア多様化の時代にお けるプロ人材への変容とキ ャリア転換?	2019年9月	日本心理学会第83回大会	宮下太陽
70	サトウタツ ヤ	発言者と被発言者の性別が 第三者のセクシュアル・ハ ラスメント認識に与える影 響	2019年9月	日本心理学会第83回大会	武田悠衣・中田友貴

71	サトウタツヤ	質的研究において「意味」を問う方法	2019年9月	日本心理学会第83回大会	
72	サトウタツヤ	Dialogical Tension Within a Japanese Language Teacher at the September 11 Attacks	2019年9月	The 2nd Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	OZAWA, Ikumi,
73	サトウタツヤ	質的研究(TEM)の実習デザイン—5日間で伝わること・伝わらないこと	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	神崎真実・菅井育子・隅本雅友・斎藤進也・安田裕子
74	サトウタツヤ	ものづくりと質的研究方法論の再考—「ものづくり」に質的研究はどう貢献できるか?	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	隅本雅友・菅井育子・神崎真実・斎藤進也・安田裕子
75	サトウタツヤ	自動車・顧客を対象としたTEA(複線経路等至性アプローチ: Trajectory Equifinality Approach)の適用事例について	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・神崎真実・斎藤進也・安田裕子
76	サトウタツヤ	セクハラ的情動性が司法面接で聴取した耳撃証言に与える影響	2019年10月	法と心理学会第20回大会	武田悠衣・中田友貴
77	サトウタツヤ	Auto-TEM for Understanding Career Support in Transition	2020年3月	The 3rd Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	TSUCHIMOTO, Teppei,
78	三田村 仰	自主企画シンポジウム6: ASD児者へのACT Matrixの日本での適用【指定討論】	2019年8月	第45回日本認知・行動療法学会	
79	三田村 仰	行動療法士ワーキンググループ企画シンポジウム【指定討論】	2019年9月	第45回日本認知・行動療法学会	
80	三田村 仰	日本心身医学会 教育企画5:機能的アサーションとは何か?	2019年11月	第60回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(第2回日本心身医学関連学会合同集会)	
81	斎藤 進也	ゲーミフィケーションを活用した大將軍八神社における星辰信仰の可視化	2019年8月	第121回人文科学とコンピュータ研究会発表会	李明珂,古川耕平
82	斎藤 進也	京都ストリート文化アーカイブの構築と発信プロジェクト	2019年8月	ARC Days 2019	
83	斎藤 進也	Research on the Activities to Make Various Local Resources into a Game: The Possibility of Community Game	2019年8月	Replaying Japan 2019	
84	斎藤 進也	未来志向のものづくり-質的なアプローチがなせること	2019年9月	日本心理学会第83回大会	安田裕子,神崎真実,サトウタツヤ,隅本雅友,川野健治,宮下太陽
85	斎藤 進也	ものづくりと質的研究方法論の再考—「ものづくり」に質的研究はどう貢献できるか?	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	隅本雅友・菅井育子・神崎真実・安田裕子・サトウタツヤ
86	斎藤 進也	自動車・顧客を対象とした、TEA(複線経路等至性アプローチ: Trajectory Equifinality Approach)	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・神崎真実・安田裕子・サトウタツヤ
87	斎藤 進也	質的研究(TEM)の実習デザイン—5日間で伝わること・伝わらないこと	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	神崎真実・菅井育子・隅本雅友・安田裕子・サトウタツヤ
88	斎藤 進也	若者と街の記憶—「京都ストリート文化アーカイブ」の取り組み—	2020年1月	立命館土曜講座(第3300回)	
89	斎藤 進也	京都ストリート文化アーカイブの構築と発信プロジェクト 2019年度成果報告	2020年2月	文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」・研究拠点形成支援プログラム研究プロジェクト／	

				2019 年度成果発表会	
90	斎藤 進也	視覚的注意反応を利用したバイオバンク・インタラクティブコンテンツ「GAZE EATER」の制作	2020年3月	情報処理学会インタラクシオン 2020	脇阪 颯太
91	斎藤 進也	インタラクティブな時間操作を伴う映像インスタレーションの制作	2020年3月	情報処理学会インタラクシオン 2020	陳品瑜、望月 茂徳
92	斎藤 進也	ゴミ分別を促すインタラクティブゴミ箱	2020年3月	情報処理学会インタラクシオン 2020	丁 尔礫、望月 茂徳
93	山浦 一保	稲盛経営哲学「利他の心」シンポジウム 稲盛経営哲学は何をもたらしたのか：JAL及び関連会社へのアンケート調査を通じて	2019年9月	日本心理学会第83回大会	山浦一保・河井 亨・サトウタツヤ・河野達仁
94	山浦 一保	プロジェクト(心理学) 稲盛経営哲学は何をもたらすのか？	2020年2月	稲盛経営哲学研究センター研究成果報告会	山浦一保・サトウタツヤ・河野達仁・河井 亨
95	澤野 美智子	企業経営における精神論的実践と家族主義-A社の事例についての文化人類学的考察	2019年5月	京都民俗学会第316回談話会	
96	澤野 美智子	When the relationship is reconstructed	2019年8月	The IUAES Inter-Congress 2019	
97	澤野 美智子	盛和塾企業における稲盛経営哲学の浸透	2020年2月	稲盛経営哲学研究センター研究成果報告会	
98	神崎 真実	「未来志向のものづくり-質的なアプローチがなせること」	2019年9月	日本心理学会第61回大会	安田裕子・サトウ タツヤ・隅本 雅友・斎藤 進也・川野 健治・宮下 太陽
99	神崎 真実	質的研究において「意味」を問う方法論	2019年9月	日本心理学会第61回大会	保坂 裕子・サトウ タツヤ・ヴァルシナーヤーン・日高 友郎
100	神崎 真実	高校教員は、社会性と情動のスキルをどのように育もうとしているのか？	2019年9月	日本心理学会第61回大会	鈴木 華子
101	神崎 真実	学校適応はどのようにとらえられるのか(11) 高等学校における生徒の学校適応と学校の多様性	2019年9月	日本教育心理学会第61回総会	大久保智生・半澤礼之・岡田有司・渡邊仁・川俣智路・大対香奈子・小泉令三
102	神崎 真実	質的研究(TEM)の実習デザイン—5日間で伝わること・伝わらないこと	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
103	神崎 真実	ものづくりと質的研究方法論の再考～「ものづくり」に質的研究はどう貢献できるか？	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	隅本雅友・菅井育子・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
104	神崎 真実	自動車・顧客を対象とした、TEA(複線径路等至性アプローチ: Trajectory Equifinality Approach)の適用事例について	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
105	神崎 真実	インタビューにおける相互作用:その分析の難しさ	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	土元哲平・市川章子・市川章子・小澤伊久美・鈴木美枝子・尾見康博
106	神崎 真実	質的研究で挑戦する:学会賞受賞論文を聴く	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	日本質的心理学会研究交流委員会・荒川 歩・菊地直樹・山田哲子・伊藤哲司
107	春日井 敏之	いじめ再調査委員会からみた学校現場の生活指導実践課題	2019年9月	日本生活指導学会第37回研究大会(大阪)	
108	春日井 敏之	いじめ問題における教師の指導・支援—いじめ再調査委員会から—	2019年10月	日本臨床教育学会第9回研究大会(北海道)	
109	堀江 未来	「異文化体験から学ぶ」教育実践の質向上を目指して—国際教育ファシリテーター育成の現状と展望—	2019年6月	異文化間教育学会第40回大会	堀江未来・秋庭裕子・高木ひとみ・筆内美砂・平井達也

110	堀江 未来	国際教育におけるプロフェッショナルリズム	2019年8月	国際教育夏季研究大会 2019「国際教育におけるプロフェッショナルリズムを考える」	Darla Deardorff、太田浩、澤谷敏行、堀江未来、アンジー・リー
111	堀江 未来	異文化体験を通じた学びの場作りー海外留学プログラムミッター	2019年8月	国際教育夏季研究大会 2019「国際教育におけるプロフェッショナルリズムを考える」	堀江未来・星野晶成・川平英里
112	堀江 未来	成長する海外留学プログラム：学びの質向上を目指して	2019年9月	CIEE 教育者セミナー	
113	北出 慶子	Reconceptualizing language education from the perspective of learners' life transitions through the study of transnational students	2019年6月	International Society for Language Studies	
114	北出 慶子	日本教師教育のためのサービス・ラーニング科目開発ー言語教師教育と市民性教育ー	2019年7月	第4回日本サービス・ラーニング・ネットワーク全国フォーラム	
115	北出 慶子	多文化理解を促すための中道的言語文化と表現の可能性ーStory Circles を通じた対話的理解の省察的实践ー	2020年2月	国際ボランティア学会学術大会	山口洋典・遠山千佳・村山かなえ
116	北出 慶子	成長し続ける教師のための省察的实践と未来展望の創造ー持続可能性のある教師コミュニティへー	2020年3月	言語文化教育研究学会 第6回年次大会	中井好男・大河内瞳・平野莉江子
117	北出 慶子	越境による「第三の知」創造を目指した実践ー交差と衝突による変容から言語文化教育の展望を考えるー	2020年3月	言語文化教育研究学会 第6回年次大会	香川 秀太、山口 洋典、義永 美央子
118	北出 慶子	多言語・多文化越境経験とライフキャリアー海外留学・就職活動経験についての語りとその意味付けー	2020年3月	TEA と日本語教育研究会	
119	肥後 克己	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討	2019年5月	第37回日本生理心理学会大会	岡本尚子・孫怡・妹尾麻美・神崎真実・川本静香・中田友貴・矢藤優子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子
120	肥後 克己	Changes in Prefrontal Brain Activity Associated with Order Information Memory.	2019年11月	Psychonomic Society 60th Annual Meeting.	Okamoto, N., and Osaka, M.
121	肥後 克己	唾液中バイオマーカーを用いた妊娠期・産後の母子の関係についての検討	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会	
122	山口 洋典	【研究報告・実践報告】災害	2019年6月	日本NPO学会第21回大会	萬代由希子・岡村こず恵、菊池遼、土崎雄祐・石井大一朝、妻鹿ふみ子
123	山口 洋典	公募シンポジウム「震災経験の意味を考究することは被災者支援にどのようにつながるか?」(指定討論スライドタイトル:「忘れ去る」ことのできない構造と状況の中で当事者と研究者が相まみえる作法)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	日高 友郎、木戸 彩恵、辻内 琢也、増田 和高、齋藤 清二、山口 洋典
124	山口 洋典	Sense making Metaphorical Thinking on Networking in Disaster Revitalization : From the Narratives of 10 Years Activity in Shiodani village, Ojiya, Niigata Japan	2019年10月	The 10th conference of the international society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM 2019)	Tomohide Atsumi and Yoshihiro Seki

125	山口 洋典	ワークショップ「ポスト活動理論のパフォーマンス：越境する地域コミュニティと学習する医療の交歓」(話題提供スライドタイトル：災害復興過程におけるメタファーの導入がもたらす集団力学の変容～新潟県中越地震後の新潟県小千谷市塩谷集落での 10 年のアクションリサーチから～)	2019 年 10 月	日本グループ・ダイナミクス学会第 66 回大会	山口(中上) 悦子・香川 秀太
126	山口 洋典	Helping learners verbalize their experiences by improving daily writing habits through a reflective and active service-learning curriculum	2019 年 10 月	2019 IARSLCE Annual Conference	Megumi AKIYOSHI, Toru KAWAI, Mitsuru KIMURA, Seishi MIYASHITA
127	山口 洋典	多文化理解を促すための中動的言語文化と表現の可能性～Story Circles を通じた対話的理解の省察的実践～	2020 年 2 月	国際ボランティア学会第 21 回大会	北出慶子・遠山千佳・村山かなえ
128	山口 洋典	越境による「第三の知」創造を目指した実践—交差と衝突による変容から言語文化教育の展望を考える—	2020 年 3 月	言語文化教育研究学会第 6 回年次大会	北出 慶子・香川 秀太・義永 美央子
129	土田 宣明	エラーの連続性にみられる加齢効果	2019 年 9 月	日本心理学会第 83 回大会	春日彩花
130	岡本 直子	The efficacy of a new self-training program of Heart Rate Variability Biofeedback and Thought Field Therapy to improve anxiety, insomnia, and quality of life	2019 年 5 月	21st International Energy Psychology Conference	Ayame Morikawa, Iwao Yokuda
131	岡本 直子	コラージュ制作における気分変化及び質的差異の検証—箱庭制作と比較して—	2019 年 9 月	日本心理学会第 83 回大会	坂口龍也
132	谷 晋二	The effects of perspective-taking and writing supportive message to others on the state self-compassion	2019 年 6 月	ACBS World Conference 17th, Dublin, Ireland	Chisato Tani,
133	谷 晋二	Case Presentation: ACT Matrix for a ASD	2019 年 6 月	ACBS World Conference 17th, Dublin, Ireland	
134	谷 晋二	ABA Training for an ASD and Behavioral Parent Training (BPT)+ACT Matrix parenting for his parent	2019 年 6 月	ACBS World Conference 17th, Dublin, Ireland	Chisako Ukita, Chisato Tani,
135	谷 晋二	Can We Capture AARRing in non-English Speaking Participant (Japanese and Chinese)?	2019 年 6 月	Association of Contextual Behavioral Science	Stewart, I., Zhang, P., Tsuda, N., & Sigemoto, Y.
136	谷 晋二	ASD 児者への ACT Matrix の日本での適用	2019 年 8 月	日本認知・行動療法学会	菅野 晃子、茂本 由紀、坂野 朝子、三田村 仰
137	谷 晋二	成人の高機能自閉症スペクトラム症者に対する第 3 世代の認知行動療法	2019 年 8 月	日本認知・行動療法学会	大島 郁葉、熊野 宏昭、中川 彰子
138	松田 亮三	The Japanese welfare mode: changes and continuities in the “lost decades”	2019 年 7 月	The 16th East Asian Social Policy Research Network Conference	Masato SHIZUME Masatoshi KATO

139	松田 亮三	Gradual Tunings for Sustainability: Japanese healthcare reform since the late 1980s	2019年7月	The 16th East Asian Social Policy Research Network Conference	
140	松田 亮三	医師労働力をめぐる政策—理論と経験—	2019年8月	日本医療福祉政策学会第3回研究例会	
141	松田 亮三	『バブル経済』破綻後、医療はどのように改革されたか—財政機構を中心に—	2019年12月	日本医療福祉政策学会第3回研究大会	
142	竹内 謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(15)—小学校低学年:参加児の仲間意識を高めるためのスタッフのかかわり方と遊びの工夫—	2019年9月	日本自閉症スペクトラム学会第18回研究大会	鈴木ひかり・藤田佳恵・坂口達也・寺岡芽美・松元佑・荒木美知子・荒木穂積
143	竹内 謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(16)—小学校:仲間意識を高めるための「役割」を重視したプログラム作成の工夫—	2019年9月	日本自閉症スペクトラム学会第18回研究大会	上仲晴菜・朝倉みずき・井出悠香子・植木雪音・井篠和之・松元佑・荒木穂積
144	竹内 謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(17)—中学生・高校生:参加児の自主性を重視した創作活動の工夫—	2019年9月	日本自閉症スペクトラム学会第18回研究大会	饗庭桃子・浮田千紗子・内田信之介・佐藤友紀・徐曼・荒木穂積・松元佑
145	竹内 謙彰	学童期における自己の構成の発達:20 答法を用いた分析	2019年11月	対人援助学会第11回大会	富井奈菜実・松島明日香・荒木穂積・中村隆一・
146	津止 正敏	仕事と介護を両立するということ	2019年7月	第32回日本看護福祉学会(市民公開講座)	
147	津止 正敏	大介護時代の地域福祉—民生委員の歩みに学ぶ—	2019年12月	京都市民生委員・児童委員及び主任児童委員委嘱状伝達式	
148	津止 正敏	日本の家族介護者支援の現状と課題	2019年12月	2019年度日韓交流・啓発セミナー「日本と韓国認知症介護で拓く未来」	
149	松原 洋子	「優生保護法の問題点—「優生」と「強制不妊」を中心に—	2019年6月	日本医学会連合第2回母体保護法(旧優生保護法)の検証のための検討会	
150	松原 洋子	「生殖細胞系列のゲノム編集と生命倫理—議論の前提について—	2019年6月	日本学術会議哲学委員会いのちと心を考える分科会	
151	松原 洋子	「日本の優生法の歴史」	2019年6月	115回日本精神神経学会学術総会委員会シンポジウム「旧優生保護法と精神科医療を検証する」	
152	松原 洋子	「ヒトの遺伝子改変是非論の争点」	2019年11月	日本学術会議・学術フォーラム「ゲノム編集技術のヒト胚等への応用について考える」	
153	星野 祐司	リスト間の音韻的類似性が指示忘却に及ぼす影響	2019年9月	日本心理学会第83回大会	高田早都
154	星野 祐司	創造的生成課題における例示に対する固着とマインドワンダリングの関連	2019年9月	日本心理学会第83回大会	横田美早紀
155	原 幸一	文理融合・学際的視点からみた意識の諸相について	2019年9月	日本心理学会 第38回大会	渡辺英治(基礎生物学研究所)、坪井宏仁(金沢大学)、對梨成一(立命館大学)、石川幹人(明治大学)
156	對梨 成一	クレストの近坂と遠坂の見かけの縦断勾配に及ぼす近坂の勾配と勾配差の効果	2019年9月	日本心理学会第83回大会	北岡明佳
157	對梨 成一	視覚意識の研究紹介:坂道の見かけの縦断勾配に及ぼす双眼鏡の効果—虚像の網膜像の形による説明—	2019年9月	日本心理学会第83回大会	

158	中村正	On the Necessity for Combining Therapeutic Justice with Clinical Family Social Work Regarding of Child Abuse and Domestic Violence	2019年7月	The XXXVIth International Congress on Law and Mental Health	
159	中村正	社会病理学者の職業倫理	2019年9月	第35回日本社会病理学会	
160	中村正	男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(第8回・最終回)「男らしさ」へのエクソダス(脱出)	2019年11月	第11回対人援助学会	國友万裕
161	東山 篤規	Visual and kinesthetic alleys formed with sticks.	2019年8月	The 42nd Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	
162	北岡 明佳	Two types of spatial color mixtures and color illusions	2019年4月	立命館大学総合心理学部・第1回総合心理学コロキウム	
163	北岡 明佳	A new demonstration of amodal completion implied in Oyama's (1960) figure-ground reversible image	2019年7月	15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV2019)	Usui, K
164	北岡 明佳	The effect of color temperature on the color-dependent Fraser-Wilcox illusion	2019年7月	15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV2019)	
165	北岡 明佳	Gender Recognition Biased by Facial Beauty, Likability, and Attractiveness	2019年7月	15th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV2019)	Mitsuhiro, K
166	北岡 明佳	おもしろアート講演会 目から見る不思議～錯視とアート～	2019年8月	子ども体験塾	
167	北岡 明佳	なぜ動いて見える！？～最新錯視研究～	2019年8月	講演会	
168	北岡 明佳	錯視の研究の紹介	2019年9月	スクリーミング・マッド・ジョージ先生との対談内トーク	
169	北岡 明佳	錯視について	2019年10月	大学模擬講義	
170	北岡 明佳	A variety of visual illusions	2019年11月	The 26th International Display Workshops (IDW '19)	
171	北岡 明佳	錯視の産業応用への可能性	2020年2月	ライフサイエンス分野課題解決型研究会 BIO×HARD tech Square アカデミックセミナー 「脳科学のビジネス応用」	
172	北岡 明佳	錯視の工作	2020年2月	愛媛大学ジュニアドクター育成塾	
173	村本 邦子	東日本大震災後のエスノグラフィーに見るコミュニティ・レジリエンス ～民話活動をめぐるコミュニティ・ナラティブから～	2019年6月	日本コミュニティ心理学会第22回大会	
174	村本 邦子	コミュニティ心理学におけるエスノグラフィーの可能性と課題	2019年6月	日本コミュニティ心理学会第22回大会	
175	村本 邦子	Recovery from a disaster and community resilience through the revitalization of folktales, festivals, folk religions: the role of external supporters in the Tohoku region of Japan	2019年6月	17th Biennial Conference on Community Research and Action	KONO Akiko, KAWANO Kenji

176	村本 邦子	日中両国における HWH (歴史の傷をいやす) プロジェクトの振り返りと平和教育への示唆	2019年8月	戦争と平和-人類運命共同体の観点から見た日本の中国侵略と南京大虐殺研究学術シンポジウム	
177	村本 邦子	9年目の福島-心理療法師に何ができるのか?	2019年8月	第11回アジア災害後心理支援国際シンポジウム	
178	村本 邦子	DVと児童虐待への対応～心理ケアの必要性～	2019年8月		
179	村本 邦子	災禍を生き抜く女たち 2: 津波を乗り越えて保育園経営を始めたBさんのライフストーリー	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	
180	村本 邦子	土地の力、ケアの力: 「五味雑陳」と台湾のケア	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	
181	村本 邦子	9年目の福島、34年目のチェルノブイリ～眼に見えないリスクを人々はどう生きるのか?	2019年11月	第11回対人援助学会	
182	美馬 達哉	毎日新聞 2020年3月7日 新型コロナ 感染防止、制約どこまで? 江川紹子氏、美馬達哉氏らに聞く「やめる目安を事前に」	毎日新聞	2020年3月7日 ～2020年3月7日	
183	美馬 達哉	視標「東京五輪1年延期」「封じ込め」対策に限界 団結の理念に立ち返れ 立命館大大学院教授 美馬達哉	共同通信	2020年3月25日 ～2020年3月	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	つぎの一步へ: イノセンス運動の未来	朱雀キャンパス	2019年6月	100名	えん罪救済センター、台湾冤獄平反協会、ニューヨーク大学アメリカアジア法研究所、立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」
2	映画『約束 名張毒ぶどう酒事件死刑囚の生涯』上映をとおして『冤罪』を議論する	キャンパスプラザ京都	2019年8月	10名	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」
3	エネルギー心理学カンファレンス 2019	大阪いばらきキャンパス	2019年9月	50名	一般社団法人日本TFT協会 TFTセンタージャパン
4	第3回 混合研究法(MMR) コロキウム	オンライン開催	2020年3月	50名	日本混合研究法学会
5	第54回 R-GIRO 修復的司法セミナー 飯塚事件の「科学的」証拠群と再審の審理	朱雀キャンパス	2020年1月	50名	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」
6	公開シンポジウム『子ども虐待を乗り越える・・・子どもの育ちを支える「社会的養育」の構築-日本とフランスの多様な家族における育ちの比較研究をとおして-』(2019年度人間科学研究所年次総会)	朱雀キャンパス	2020年2月	100名	公益財団法人日本財団

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	稲葉 光行	2019年度・八幡市における子どもを中心とした地域の学びとコミュニティ活性化の支援活動実践	八幡市ふるさと学習館	2019年4月1日 ～2020年3月31日
2	稲葉 光行	「鳥居をくぐる時はどこを通る?」遊びながら学習するシリアスゲーム	Kufuna	2019年9月1日 ～2019年9月1日

3	林 勇吾	認知科学会 サマースクール 2019 講師	神奈川県箱根市	2019年8月28日 ～2019年8月30日
4	大谷 いづみ	海外と日本のアクセスの違い	第18回全国いすアクセス・マニア集会 in 京都 II 「自律的な移動」と「障害者の自立生活の課題と展望」 於:京都市醍醐交流会館	2019年4月20日～
5	矢藤 優子	R-GIRO×SDGs いばらき子育てフォーラム	いばらき×立命館デー	2019年5月19日 ～2019年5月19日
6	矢藤 優子	Developmental studies on children's social abilities in Japan	上海師範大学における講演会	2019年11月17日 ～2019年11月17日
7	矢藤 優子	日本心理学会公開シンポジウム 高校生のための心理学講座「発達心理学」担当	大阪大学人間科学部	2019年11月23日 ～2019年11月23日
8	安田 裕子	The transformation of value of a Japanese woman's infertile experience: with Trajectory Equifinality Modeling (TEM) (ポスター発表)	University of Luxembourg, Belval Campus, Belval, Luxembourg, University of Luxembourg Second Annual Summer School on Cultural Psychology, "CULTURAL PSYCHOLOGY AND HUMAN DEVELOPMENT IN THE LIFE COURSE: Cultural Psychology as an Interdisciplinary Synthesis"	2019年6月19日 ～2019年6月19日
9	安田 裕子	The qualitative analysis of the process and transition about woman's infertile experience with TEA(Trajectory Equifinality Approach): Focusing on the change of sense of values (セミナーでの発表)	Sigmund Freud PrivatUniversität Berlin, Berlin, Germany, Cultural Psychology Lecture at the SFU Berlin	2019年7月1日 ～2019年7月1日
10	安田 裕子	質的データ分析法 複線径路等至性アプローチの基礎 (講習会)	武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス、日本質的心理学会・日本精神衛生学会 共催ワークショップ こころの健康に関する質的研究法 複線径路等至性アプローチ (TEA)	2019年11月24日 ～2019年11月24日
11	安田 裕子	オープニングレクチャー 「人のライフとキャリアをとらえるTEAという質的研究法—個人の多様な願いに接近する」	第2回 立命館大学 ものづくり質的研究センター研究会	2020年1月17日 ～2020年1月17日
12	安田 裕子	子の奪い合い紛争の心理学	R-GIRO 「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」第55回修復的司法セミナー「父母間での子の奪い合い紛争と修復的司法」, 立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室	2020年2月8日 ～2020年2月8日
13	安田 裕子	TEAを用いた研究の基本的なプロセス	第3回 立命館大学 ものづくり質的研究センター研究会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス B棟5階 B515-516 研究会室	2020年2月28日 ～2020年2月28日
14	安田 裕子	過程と発生をとらえるTEA—多様性・複線性を可視化する TEM を中心に	TEA と日本語教育研究会, 立教大学池袋キャンパス (オンライン研究会)	2020年3月11日 ～2020年3月11日
15	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員申請内容ファイル作成のポイント (講習会)	茨木市・立命館大学、2021年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2020年3月16日 ～2020年3月16日
16	サトウタツヤ	TEAの社会実装	キャリアテックワーキンググループ	2019年7月19日～
17	サトウタツヤ	研究倫理について	中京学院大学学内研修会	2019年8月27日～
18	サトウタツヤ	「当たり前屋グループが来ている」危険伝えたい善意連鎖	東奥日報	2020年3月5日～
19	サトウタツヤ	デマ拡散どう防ぐ 立命館大、サトウタツヤ教授 「一歩立ち止まって」	産経新聞	2020年3月6日～

20	齋藤 進也	立命館土曜講座 特集 「京都の街を彩った大衆 文化の記憶」企画	衣笠キャンパス末川記念会館 SK101 (講義室)、立命館土 曜講座	2020年1月11日 ～2020年1月25日
21	澤野 美智 子	Eugene Raikhel先生招聘 講演の司会、および大会 準備委員会企画シンポジ ウム「The logics and practices about addiction: linking the perspectives of psychology and medical anthropology (アディク ションをめぐる論理と実 践ー心理学と医療人類学 のまなざしをつなぐ)」の オーガナイズ・司会	日本心理学会第83回研究大会@立命館大学大阪いばらきキ ャンパス	2019年9月11日 ～2019年9月11日
22	澤野 美智 子	パネル「The Medical Anthropology of Addiction」の開催協力	第 83 回神戸人類学研究会@神戸大学鶴甲第一キャンパス E410	2019年9月14日 ～2019年9月14日
23	澤野 美智 子	日本民俗学会第 908 回談 話会・京都民俗学会第 321 回談話会「思いがけないお 産の民俗」コメンテーター	京都市職員会館かもがわ	2019年12月14日 ～2019年12月14日
24	松田 亮三	Japan's Response to the Coronavirus(11 April 2020).	Cambridge Core Blog (https://www.cambridge.org/core/blog/2020/04/11/japans-response-to-the-coronavirus-pandemic/)	2020年1月10日 ～2020年4月10日
25	松田 亮三	Japan's Response to the Coronavirus - Now updated (18 May 2020).	Cambridge Core Blog (https://www.cambridge.org/core/blog/2020/04/11/japans-response-to-the-coronavirus-pandemic/)	2020年1月10日 ～2020年4月10日
26	津止 正敏	ボランティアコーディネ ーションにおけるチャレ ンジドケース臨床研究	科学研究費補助金 2004 年度～2006 年度、基盤研究 (B)No.16330110 研究成果報告書	2007年5月～
27	松原 洋子	日本科学史学会 全体委員 和文誌編集委員会委員		2007年～
28	松原 洋子	日本科学史学会生物学史 分科会『生物学史研究』編 集委員		2007年～
29	松原 洋子	「ハイブリッドな身体を 生きる——サイボーグ論 の現在」	明治学院大学港区民大講義「現代社会における技術と人 間ーテクノソサエティの現在」	2009年6月5日～
30	松原 洋子	Seizongaku Ars Vivendi:Interdisciplinary Studies on Forms of Human Life and Survival.	立命館大学インドネシア公共政策立案研修<第1期>	2009年6月10日～
31	松原 洋子	「生存学は動いている」 (司会・コメント)	立命館大学ホームカミングデー生存学研究センター公開企 画、立命館大学衣笠キャンパス	2010年6月6日～
32	松原 洋子	「ハンセン病の教訓」	iCeMS インテグリティセミナー 「科学者の生き方と責任」 第三回、京都大学 物質ー細胞統合システム拠点 (iCeMS)	2010年6月26日～
33	松原 洋子	立命館大学研究倫理委員 会委員		2010年～
	松原 洋子	「強制不妊問題と国の責 任」	NHK 視点・論点	2019年4月17日 ～2019年4月17日
34	松原 洋子	「強制不妊判決「8合目ま でいって落ちた」 請求阻 んだ壁」(コメント)	『朝日新聞』朝刊	2019年5月29日 ～2019年5月29日
35	松原 洋子	「異例裁決、優生政策検証 阻む」(コメント)	『京都新聞』(朝刊)	2020年3月7日 ～2020年3月7日
36	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「自分 に目を向けて」	中日こどもウィークリー	2019年4月6日 ～2019年4月6日
37	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「台湾 での貧困教育活動」	中日こどもウィークリ	2019年5月4日 ～2019年5月4日

38	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「潜伏 キリシタン」	中日子どもウィークリー	2019年6月1日 ～2019年6月1日
39	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「人生 を楽しむ」	中日子どもウィークリー	2019年6月29日 ～2019年6月29日
40	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「ホロ コースト博物館にて」	中日子どもウィークリー	2019年7月27日 ～2019年7月27日
41	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「学校 は義務？権利？」	中日子どもウィークリー	2019年8月24日 ～2019年8月24日
42	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「外国 人と交流を」	中日子どもウィークリー	2019年9月21日 ～2019年9月21日
43	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「失敗 しても大丈夫」	中日子どもウィークリー	2019年10月19日 ～2019年10月19日
44	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「子ど もの意見表明権」	中日子どもウィークリー	2019年11月 ～2019年11月16日
45	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「朝起 きる、起きない」	中日子どもウィークリー	2019年12月14日 ～2019年12月14日
46	村本 邦子	中日子どもウィークリー 親の時間子の時間 「社会 の人材として」	中日子どもウィークリー	2020年1月11日 ～2020年1月11日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	稲葉 光行	メタバースを用いた日本の伝統文化及び 生活文化の状況学習支援環境に関する総 合的研究	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
2	大谷いづみ	生命倫理学前史・成立史における安楽死論 とキリスト教の相剋に関する米英日比較 研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
3	平岡 義博	科学的証拠の信頼性評価法と標準鑑定法 の確立に向けて	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
4	山田 早紀	日本における取調べへの弁護人の立会い の運用可能性	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
5	川端 美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確 立—公衆浴場の普及に注目して	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
6	松本 克美	東北震災放射能・津波被災者の居住福祉 補償とコミュニティ形成—法学・医学の 対話	基盤研究(B)	2016年4月	2020年3月	分担
7	二宮 周平	親の別居・離婚における子の権利保障シ ステムの構築	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	代表
8	山浦 一保	リーダー—メンバーの関係性によって生 起するチーム内の妬み感情:その緩和条件 の解明	基盤研究(C)	2019年4月	2021年3月	代表
9	山浦 一保	「自分は大丈夫」という心理を考慮した避 難行動メカニズムの解明と避難促進政策 設計	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	分担
10	神崎 真実	学校における居場所づくりの実践と論 理:通信制高校のフィールドワーク	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表

11	堀江 未来	我が国の中等教育における国際科学教育の評価と今後の方向性の考察	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
12	堀江 未来	大学国際化マネジメントにおける教職協働の実証的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
13	堀江 未来	「教育経済学」の新たなフロンティアを目指してー国際貿易理論によるアプローチー	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
14	堀江 未来	国際教育プログラムの開発・普及・評価サイクルの構築:高大連携による学びの実質化	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
15	北出 慶子	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
16	北出 慶子	海外留学プログラムの効果検証:大規模パネルデータによる学生の心理特性の変化の分析	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
17	北出 慶子	アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
18	土田 宣明	高齢者にみられる実行機能の特徴ーエラー後の対応に注目してー	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
19	土田 宣明	コミュニティ形成による高齢期のライフデザインの発達支援の検討	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	分担
20	谷 晋二	ASD者への教育及び就労支援のためのACTプログラムの作成と有効性の検討	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
21	仲 真紀子	わが国における神経法学の基盤的研究ー法学・医学・心理学の協働ー	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
22	仲 真紀子	司法面接における開示への動機づけを高める要因の研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	分担
23	仲 真紀子	法学・心理学・脳神経科学の学際的研究による取調の適切性を評価する客観的尺度の構築	挑戦的研究(萌芽)	2018年4月	2020年3月	分担
24	安田 裕子	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究(代表:成城大学・指宿信)	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
25	安田 裕子	10代母親の逆境的小児期体験(ACE)を踏まえた妊娠期からの訪問プログラム開発(代表:大阪府立大学・大川聡子)	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	分担
26	安田 裕子	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発(立命館大学・北出慶子)	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
27	安田 裕子	司法面接における面接への動機づけを高める要因の研究(四天王寺大学・田中晶子)	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	分担
28	安田 裕子	人の生の潜在性と可能性に接近するTEAー文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
29	安田 裕子	大学生のキャリア発達プロセス可視化による自己形成の基礎研究と国際間比較	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2020年3月	分担
30	早川 岳人	医療情報の高度利用による健康寿命予測推定モデルの構築と健康寿命の推計に関する研究	基盤研究(C)	2015年4月	2020年3月	代表
31	早川 岳人	ライフコースを通じた現代日本人のための循環器疾患発症予測ツールの開発	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
32	早川 岳人	地域住民における詳細な認知機能検査結果と十年間の認知症、要介護リスクとの関	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	分担

		連解析				
33	山口 洋典	市民性涵養の関係性モデルを軸とした地域参加学習カリキュラムと教授法の開発	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
34	山口 洋典	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
35	竹内 謙彰	認知的側面と自己意識の諸側面とを関連づけた学童期の発達アセスメント	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
36	美馬 達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	科学研究費助成事業・新学術領域研究(研究領域提案型)	2015年6月	2020年3月	分担
37	美馬 達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	科学研究費助成事業・新学術領域研究(研究領域提案型)	2015年6月	2020年3月	代表
38	美馬 達哉	脳卒中患者に対するVR技術を用いたトレッドミル歩行の効果と回復メカニズムの解明	科学研究費助成事業・基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
39	美馬 達哉	臨床音楽による癒し感の生理・心理的定量化手法の開発ー音楽併用リハビリテーションー	科学研究費助成事業・基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
40	美馬 達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	科学研究費助成事業・基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
41	美馬 達哉	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	科学研究費助成事業・基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	代表
42	美馬 達哉	静磁場暴露による低周波脳律動の誘導と関連領域との相互結合性の変化	科学研究費助成事業・基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
43	美馬 達哉	マイノリティアーカイブの構築・研究・発信：領域横断的ネットワークの基盤創成(萌芽)	科学研究費助成事業・挑戦的研究(萌芽)	2019年6月	2021年3月	代表
44	美馬 達哉	「老成学」の基盤構築ーく媒介的共助>による持続可能社会をめざして	基盤研究(B)	2015年7月	2020年3月	分担
45	服部 雅史	創造的認知の潜在性と意識的コントロール	科研費・基盤研究(B)	2015年4月	2021年3月	代表
46	廣井 亮一	対人援助者の実践過程における「司法臨床」の応用可能性に関する実証的研究	科研基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
47	廣井 亮一	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究	科研基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
48	東山 篤規	MEMS 触覚センサとステージモデルによる人のように触れる触覚認識モデルの研究	基盤研究(B)	2018年4月	2021年3月	分担
49	東山 篤規	視空間と触空間における直線の平行性と収斂性：ユークリッド空間説の検討	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
50	三田村 仰	ASD 者への教育及び就労支援のための ACT プログラムの作成と有効性の検討	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
51	上宮 愛	司法面接における開示への動機づけを高める要因の研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	分担
52	上宮 愛	子どもへの聴き取りで用いる補助物(人形)の特徴が報告内容及び及ぼす影響	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
53	妹尾 麻美	現代若者の再帰的ライフスタイルの諸類型とその成立条件の解明	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
54	サトウ タツヤ	「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	分担

		究				
55	サトウ タツヤ	「裁判員裁判の評議デザイン-評議におけるストーリーの構築過程と法実践手法の解明」	基盤研究(B)	2017年7月	2020年3月	分担
56	サトウ タツヤ	人の生の潜在性と可能性に接近するTEA-文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	分担
57	サトウ タツヤ	大学生のキャリア発達プロセス可視化による自己形成の基礎研究と国際間比較	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2020年3月	分担
58	野田 正人	児童福祉施設における青少年支援の再検討-遊び・スポーツ等を通じた支援を中心に-	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
59	野田 正人	児童自立支援施設に併設された学校における性に関する健康教育プログラムの開発	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	分担
60	野田 正人	対応困難な保護者とのトラブル事例分析と紛争化の防止及び解決支援に関する学際的研究	基盤研究(A)	2017年4月	2021年3月	分担
61	中村 正	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
62	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
63	岡田 まり	コンピテンシーに基づくスーパーバイザー養成プログラムのモデル構築	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	代表
64	岡田 まり	成長に応じるスーパービジョンモデルとバイザー研修・支援システムの構築に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	分担
65	松原 洋子	戦後日本の人工妊娠中絶の制度史:医療・人口・地政学	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
66	岸 政彦	沖縄戦の生活史と戦後沖縄社会の構造変容	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
67	矢藤 優子	生理指標を用いた親子の社会的関係性に関する縦断的研究:胎児期から幼児期にかけて	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
68	森久 智江	再犯防止概念の多角的検討	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
69	森久 智江	危険社会における終身拘禁者の社会復帰についての総合的研究:無期受刑者処遇の社会化	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	分担
70	若林 宏輔	取調べ録音・録画を用いた任意性判断に対して画像構成が与える影響について	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
71	斎藤 真緒	虐待・介護殺人予防としての男性介護者のピア・サポート活動の可能性と課題	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
72	津止 正敏	ケア包摂型コミュニティのダイナミズムと開発主体アソシエーションに関する臨床研究	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
73	岡本 直子	幼児のファンタジーの体験および意味づけ-幼児と養育者の関わりの素材としての活用	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表

74	北岡 明佳	モノリザの謎:二次元画像からの三次元物体の知覚	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	分担
75	山本 博樹	高校初年次生の適応的な説明文読解と支援メカニズムの解明	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
76	藤本 学	看護師のスキルタイプ別コミュニケーショントレーニングプログラムの開発	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	分担
77	藤本 学	不定就労者の就労自立支援に向けたPBL型ソーシャルスキルトレーニングの開発と普及	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
78	荒木 寿友	道徳教育において育成される「コンピテンシー」とカリキュラム開発に関する研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
79	渡辺 克典	障害者差別をめぐる社会運動組織間ネットワーク研究	基盤研究(C)	2019年4月	2024年3月	代表
80	渡辺 克典	病者障害者運動史研究——生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担
81	渡辺 克典	障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	分担
82	丸山 里美	日本社会における困窮女性の実態把握と売春防止法改正に向けた理論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
83	丸山 里美	オルタナティブ家族で精子提供によって出生した子の情報開示ジレンマに関する研究	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
84	丸山 里美	子どもの貧困に関する総合的研究:貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	基盤研究(A)	2016年4月	2020年3月	分担
85	岡本 尚子	全国15万人の不登校・外国籍生徒のためのYouTube版算数・数学コンテンツ開発	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
86	岡本 尚子	視線と脳活動の同時計測による思考過程と思考負荷の可視化	若手研究(A)	2017年4月	2021年3月	代表
87	岡本 尚子	アクティブラーニングに活用できる教室用音声環境の開発	挑戦的研究(萌芽)	2017年6月	2020年3月	分担
88	林 勇吾	電子ネットワーク上における集団感情とバイアスに関する総合的検討	基盤研究(C)	2016年7月	2020年3月	代表
89	澤野 美智子	出産の危機状況を医療、女性の身体、子供の命の視点から解明するエスノグラフィ―研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
90	金 成恩	親の別居・離婚における子の権利保障システムの構築	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
91	金 成恩	国際比較研究拠点の形成に向けた東アジアにおけるLGBT法政策の総合的研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
92	廣瀬 翔平	幼児の注意喚起行動とその応答の関係性の解明—子育て及び教育支援への応用—	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
93	山崎 優子	法学・心理学・脳神経科学の学際的研究による取調の適切性を評価する客観的尺度の構築	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	代表

94	孫 怡	祖父母の育児参加による幼児のパーソナリティ発達及び親子のQOLへの影響一日中比較	若手研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
95	大谷 彬矩	精神障害者処遇における再犯防止概念に関する理論的・比較法的研究	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
96	大谷 彬矩	再犯防止概念の多角的検討	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	松田 亮三	グローバル化の中での日本福祉モデルの変化と継続(派遣先: The 16th Annual Conference of the East Asian Social Policy Research Network)	公益財団法人村田学術振興財団 第34回(平成31年度) 海外派遣	2019年6月	2019年7月	代表
2	仲 真紀子	「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」	JST・「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域	2015年11月	2020年2月	代表
3	仲 真紀子	司法面接研究	日本心理学会研究助成	2019年4月	2020年3月	分担
4	矢藤 優子	養育者の笑顔が乳児の情緒および社会性の発達に及ぼす影響について	花王株式会社(共同研究)	2019年4月	2020年3月	代表
5	サトウ タツヤ	マツダ株式会社との共同研究	マツダ株式会社(共同研究)	2019年4月	2020年3月	代表
6	サトウ タツヤ	カプセル入り化粧品の見た目の選好についての心理学的研究	三粧化研株式会社	2019年4月	2020年3月	代表
7	サトウ タツヤ	キャリアに関する家陽動研究	日本総合研究所	2019年4月	2020年3月	代表
8	サトウ タツヤ	大学生の力を活用した集落復興事業	福島県	2019年4月	2020年3月	代表
9	早川 岳人	地域包括ケアシステムの推進に向けたデータ分析事業	滋賀県	2019年4月	2020年3月	代表
10	早川 岳人	新旧(1980-2020年)のライフスタイルからみた国民代表集団大規模コホート研究: NIPPON DATA80/90/2010/2020	厚生労働科研	2019年4月	2022年3月	分担
11	中村 正	フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座の開講	日本財団助成金	2019年4月	2023年3月	代表
12	中村 正	ドメスティック・バイオレンス加害者更生プログラムのためのカウンセリング及び支援員養成講座	京都府	2019年4月	2023年3月	代表
13	中村 正	安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築	戦略的創造研究推進事業「情報広報センター・暴力行動ユニット」(JST・RISTEX)	2016年10月	2019年3月	代表
14	春日 彩花	日本人成人による高齢者の知恵の評価と測定尺度の開発	ユニバーサル財団助成金	2019年11月	2020年10月	代表
15	大谷彬矩	刑事施設における処遇の位置づけに着目した社会復帰理念の具体化に関する研究	三菱財団助成金	2018年10月	2019年9月	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	立命太郎	特許（国内）	本人单独	筆頭発明者	****	****	****	日本